
予測モデル Ver.7.1 の新機能

Ver.6.0 から Ver.7.1 へのバージョンアップで、追加した新しい機能は次のとおりです。

(1) 世界測地系への切り替え

地図データ、表示機能など日本測地系において行っている部分を世界測地系対応に改良しました。わが国では平成 13 年 6 月に測量法等が改正され、2002 年 4 月 1 日以降日本周辺海域の海図はすべて世界測地系海図を用いることとなりました。石油連盟のシミュレーションモデルは、2003 年 6 月にリリースしたバージョン 6.0 まで、日本測地系対応になっていましたので、実態に合わせるべく、地図データ、表示機能など日本測地系において行っている部分を世界測地系対応に改良しました。

注：世界測地系の基本座標は日本測地系に対し、南東に約 450m ずれた位置関係になり、予測精度に影響がありますので、Ver.7.1（世界測地系対応）に更新していただきますようお願いいたします。

(2) 気象データの存在範囲表示及び気象データが存在しない領域でのメッセージ表示

RSM データの存在しない海域は、風速データがゼロになっており、この海域での予測は実態と異なる予測となり誤解を生む恐れがありますので、以下の機能追加を実施しました。

- () 「地図情報」に、気象データ表示メニューを追加
- () 以下の場合、エラーメッセージを表示し処理を中止
 - ・気象データのない範囲に流出位置を設定した場合
 - ・計算の途中に予測油膜の経路が気象データのない範囲に入った場合
 - ・漂流軌跡がシミュレーション対象海域を越えた場合

(3) 脆弱データ登録修正機能改良

従来の MS-ACCESS の脆弱データの登録修正機能をベースに、地図と連動した脆弱データの登録修正機能を「モデル海域作成プログラム」に追加しました。機能概要は以下のとおりです。

- ・マウスで地図上に指定したポイントの緯度経度をメニュー上に表示
- ・海域毎のデータと全国版のデータを同時更新
- ・海域データ参照時には、全国版のデータとの整合性を確認

(4) 海流データ作成機能改良

海流データの作成機能に関して、以下の改良を実施しました。

- ・データ入力単位の切り替え（ノット cm/s）
- ・流向の任意角度化（北 0°、東 90°、南 180°、西 270°）
- ・入力ベクトル長の表示機能
- ・海流データ合成時に、合成後のデータをプレビュー表示

(5) 油種選択方式の改良

油種選択方式については、個別の油種を選択できるように改良するとともに、合わせて代表油種も別途選択可能としました。

(6) 計算結果等の画像ファイル出力

表示されている画面を画像ファイルに保存する機能を追加しました。対応ファイル形式は、JPEG, Bitmap(BMP)の 2 種類です。また漂流分布図、漂流軌跡については、連番で画像ファイル出

力を行う機能を追加しました。

(7) 別条件計算結果の多重出力機能

流出位置、流出量等の基本条件変更および風係数、流出油移動モデル、流出油性状モデル等パラメータ変更または海流修正等のデータベース変更等による複数の計算結果ファイルを入力し、それらの結果を重ねあわせ等の処理を行い、計算結果を多重表示する機能を追加しました。表示形式は以下の3種類です。

- ・漂流軌跡表示
- ・分布図表示
- ・セル毎の油厚最小 / 最大 / 平均値表示

(8) 時期別海流データの使用

時期別海流データに対応できるように、海流データファイルフォーマットの変更、及びそれに伴う切り出しプログラム、予測モデルプログラムの改良。ならびに、ユーザーが海流データを選択しなくても、流出開始日時に応じて適切な海流データが設定されるようになっています。

切り出しプログラムにおいては、海流切り出し時に複数の海流データを含む海流データファイルを入力し、海域毎の海流データファイルを生成できるようになっています。

また、予測モデルプログラムにおいては、ユーザーが意識的に時期別海流データを選択することも可能とし、選択された海流を使用して予測モデルを実行するように改良しました。

以上